

明治

1895—1911

町制が施行された明治28年(1895)の前年には日清戦争が勃発、29年には三陸大津波で大被害に遭うなど、志津川町の誕生は波乱の幕開けだった。しかし、志津川産生糸「金華山」の世界万国博覧会グランプリ受賞や漁協組合設立、志津川病院創設など、まちづくりの礎となる足跡もすっかり刻まれた。明治29年(1896)の世帯数は799戸、人口4,623人だった。



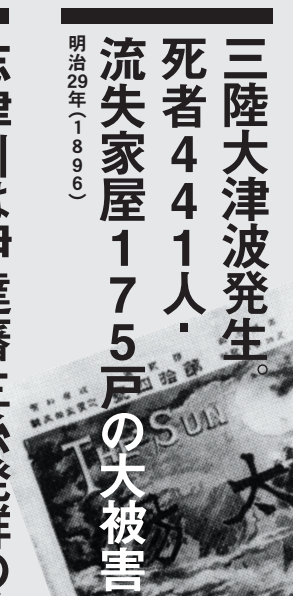
本吉郡役所

本吉村が町制施行し、「志津川町」が誕生

明治28年(1895)



新井田川河口と郡役所



三陸大津波発生。死者441人・流失家屋175戸の大被害

明治29年(1896)

志津川は伊達藩生糸発祥の地。志津川産の生糸「金華山」が、パリ万博でグランプリ受賞

明治33年(1900) 明治44年(1911)にはイタリヤ・トリノ万博でグランプリ受賞



明治22年(1888)に高橋長十郎を中心とする約30名で、わが国初めての機械座繰り製糸工場「旭製糸会社」を旧志津川小学校地に創立

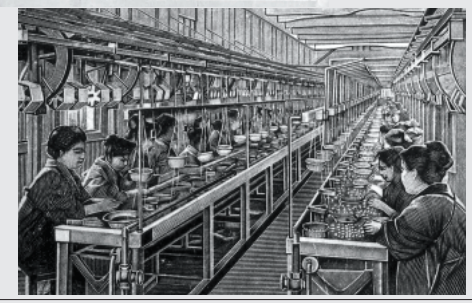


↑「旭製糸」ラベル

明治29年6月の三陸大津波を伝える雑誌「太陽」



パリ万博グランプリ賞状



サケ養殖の歴史は「ここ」から。水戸辺川でサケの天然ふ化事業が始まる

明治35年(1902)



明治29年頃、上の山にあった公立志津川病院



志津川婦人会の会員たち(佐利商店前)

町民の健康を願い、志津川病院が創設される

明治39年(1906)



松原海岸の東屋

名所誕生。

松原に、海水浴場が開設される

明治43年(1910)



五日町の街並み



本吉郡役所と志津川小学校の落成、6郡連合水産共進会開催の「三式」を祝う八幡町花車

- 明治38年(1905) 8月 志津川婦人会創設(会長・飯塚はる子)
- 明治39年(1906) 10月 志津川病院創設(初代院長・宮田勉)
- 明治40年(1907) 3月 小学校尋常科6年、高等科2、3年となる
- ※戸倉小学校が高等科を設置し「戸倉尋常高等小学校」と改称
- 明治41年(1908) 8月 志津川―石巻間連絡航路開始
- 明治42年(1909) 11月 本吉郡役所、大森1番地に新築落成
- 明治43年(1910) 5月 松原に海水浴場を開設する
- 8月 志津川町役場を塩入7に建築
- 明治44年(1911) 3月 新志津川魚市場創立(志津川産生糸「金華山」がトリノイタリヤ万国博覧会でグランプリ受賞)
- ボーツマス条約調印
- アインシュタインが特殊相対性理論を完成
- 南満州鉄道株式会社設立
- 極北西航路初横断
- 足尾銅山暴動
- 伊藤博文暗殺
- 韓国併合
- 辛亥革命
- アムンゼン、南極点到達

志津川町での出来事

世の中の出来事

- 明治28年(1895) 10月 本吉村が町制を施行し「志津川町」と改称
- 明治29年(1896) 6月 三陸大津波、死者441人・流失家屋175戸
- 7月 内務大臣板垣退助が津波見舞に来町
- 明治30年(1897) 7月 イギリスの軍艦、津波見舞のため志津川に入港
- ※この年大凶作
- 明治31年(1898) 11月 志津川漁業組合を袖浜に設立、組合長・佐々木竹蔵
- 明治33年(1900) 12月 志津川唱歌が作られる
- ※志津川産生糸「金華山」がパリ万国博覧会でグランプリ受賞
- 明治34年(1901) 1月 志津川―塩釜間汽船航海業開始
- 明治35年(1902) 11月 入谷小学校が高等科を設置し「入谷尋常高等小学校」と改称
- ※水戸辺川でサケの天然ふ化事業を始める
- 明治36年(1903) 6月 袖浜に「志津川町漁業組合」設立
- 明治37年(1904) 10月 志津川小学校新校舎竣工
- ※戸倉村に赤痢大流行、罹病者53人・死者11人
- ライト兄弟、世界初の飛行に成功
- 日露戦争勃発
- シベリア鉄道開通
- 八幡製鉄所作業開始
- ノール賞第1回受賞
- 南アフリカ戦争勃発
- 貨幣法公布
- 下関条約調印
- 三國干涉台湾総督府条例公布